

令和6年度 上田市立塩田西小学校 学校自己評価シート

学校教育目標	めざす子どもの姿(中期的目標)	
かしこく やさしく たくましく 一学校経営ビジョンー 誰もが安心して 生き生きと学び 自主性をはぐむ学校	「かしこく」 意欲的に学習に取り組む子ども 「やさしく」 人やものを大切に子ども 「たくましく」 心と体をきたえる子ども	
	今年度の重点目標	
	1	安心して取り組める、わかる・楽しい授業づくり
	2	誰もが安心できる学級・学校づくり
	3	自分を向上させる心と体づくり

領域	対象	評価項目	評価の観点
教育活動（重点目標にかかわって）	重点①	自分らしく学ぶ授業展開の工夫	課題解決に向け、自分らしく学ぼうとする子どもの育成
		学習に向かう基本姿勢	1時間のゴールを見通した「塩田西スタイル」の授業
		子どもが主体の授業	子どもの「見たい」「知りたい」「確かめたい」から始める授業
		表現力の育成	考えを伝え合いながら学習を深める学び合いの場の設定
	重点②	認め高め合う子どもの育成	「自分も(自分たちも)もなかなかやるなあ」と達成感や満足感を味わえる場の位置づけ
		教師と子どもの人権感覚	子どもの思いに寄り添った教師の温かいかわり
	重点③	たくましい心の育成	目標設定、行動、見直しのサイクルを回し、挑戦する気持ちを育てる場を設定しているか。
		体力づくり	楽しみながら体を動かせる活動や体育授業の充実(マラソン、なわとび、児童会企画等)
		校内研究・研修の充実	外部講師による研修、校内参観を通して学び続ける教師
学校運営	地域連携・発信	安全教育	「自分の命は自分で守る」という意識を育む安全教育の推進と地域連携
		特色ある教育活動	他者(長野大学・他校)や地域と交流しながら学びを深める「ふるさと体験学習」
		積極的な情報発信	学校HP、おたより等による教育実践の発信

総合評価					
○9年間取り組んできた授業のUD化を基盤とし、今年度も「問いのある授業」を切り口に、一人一公開での研修を中心に授業改善に取り組んできた。子どもたちの「やってみたい」という思いを大切に、子どもの意識の流れに沿った単元展開や学習活動の工夫をした主体的・協働的な授業が多く見られた。また、教育課程研究協議会や塩田支会人権同和教育研修会で研究授業を公開することで、本校の教育活動や研究内容について協議し深めることができた。 ○学校自己評価の児童アンケートでは、95%の児童が「先生や友達、頑張っていることを褒めたり励ましたりしてくれる。」と肯定的に答えている。これに甘えることなく来年度も子どもの声に耳を傾け、支えていく教師の姿勢を大事にしていく。					
成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
授業のUD化の視点を基盤に、子どもの思いを大切にしたい問いのある授業を職員共通の意識で取り組んだ。課題把握やまとめの場面で子どもが主体的に学習に取り組む姿が見られた。		○			塩田西スタイル(課題把握)を軸に、主体的な学びにつながるよう、子どもの意識に沿った問いのある授業をめざしていく。
一人ひとりの良さを認め、寄り添う支援を心がけた。児童アンケートでは96%の児童が「困ったときに先生は話を聞いてくれる」と回答している。		○			不安を抱えている児童の思いを大切に受け止め、自分も友だちも大切にできるように自尊感情を高めることで、どの子も居場所のある学級・学校づくりを目指していく。
児童が主体となり、行事を中心にめあてや振り返り発表する活動を通して、自分を向上させようとする意識が高まった。		○			児童の主体性を尊重し、目標の設定や振り返りを丁寧に行っていきたい。また、発表の場を設けることで、表現力の向上もねらっていきたい。
成果と課題					改善策・向上策
児童一人ひとりのやりたい活動を肯定的に捉えることで、主体的に学ぶための支援をすることができた。		○			課題解決の道筋を一緒に考え、さらに協働的な学習を仕組むことで、児童の学びを深めていきたい。
授業者のUD化を意識した授業を基盤に主体的・探究的な学びを目指していく。		○			学習活動や学習問題、課題を子どもの声から設定していく問いのある授業を目指す。自分に合った学び方ができるような授業形態も考えていく。
「やってみたいから始める塩田西小」を合言葉に、子どもの言葉や意識から学習問題や課題を設定する授業を意識することができた。		○			塩田西スタイルの課題把握の場面を焦点化し、引き続き授業改善に取り組んでいく。また「やってみたい」気持ちを大切にしたい総合的な学習の充実を図る。
協働的な学びが位置付いた授業が多く見られた。振り返りの場面を大切に、子どもたちが自分なりの表現を工夫する姿が見られた。		○			安心して自分の考えを伝えられる教室の雰囲気作りに努める。また、相手意識を高め、必要感のある話し合いの場を設定する。
全国学調の「自分には、よいところがあると思う」の質問に「そう思う」と回答した本校6年児童の割合が県平均や全国平均を上回った。		○			子どもたちの学びの過程で肯定的支援を心がけていくとともに、福祉的交流や異年齢交流により、自己有用感を伸ばしていきたい。
重点研究で人権同和教育研究部会を設け、支会の研修会で授業を公開することで、児童の人権感覚や教師の関わり方について研究を深めることができた。		○			研修会で学んだことをもとに、授業改善を進め、教師自身の人権感覚を磨きながら児童の思いや願いに寄り添っていききたい。
児童会が中心となり、各行事、学期のはじめなどにめあての発表を行った。また、行事後はがんばったことを放送で発表する機会をもつことで、意欲的に取り組み達成感を味わうことができた。	○				今後も目標やその振り返りを発表する場面を設けることで、児童が学習活動に見通しを持ち主体的に取り組めるようにしていく。
児童会のマラソン旬間では、図書委員会とのコラボレーションなど工夫しながら体力作りを楽しく進めていく姿が見られた。		○			教師主体ではなく、児童のやりたいこと、楽しみたいことなどの思いを尊重しながら体力づくりをすすめていきたい。
不登校対応や生徒指導、学級経営(Q-U分析)などの研修に、講師を招き充実させることができた。UD化の公開授業も進めることができた。	○				本校の課題を明らかにし、教職員にとって必要感のある研修を年間計画に位置付けていきたい。
交通安全教室や避難訓練で児童の意識を高めると共に保護者連絡ツール(メール)を活用し、保護者への連絡、注意喚起等も行うことができた。		○			係が研修で学んだことを職員間で共有する機会を増やすことで、児童の命を守る安全教育を充実させたい。保護者への注意喚起も引き続き行う。
長野大学やさくら国際高校だけでなく、福祉施設や保育園との交流、地域講師を招いたふるさと体験学習を積極的に行うことができた。	○				子どもの思いから出発するふると学習をめざし、ねらいと願う姿を明確にした活動を展開する。
子どもの姿や学校の様子が伝わるように工夫しながら、学年便りや学校便りを定期的に発行した。また、HPの更新を心がけた。	○				学年便りや学校便りの定期的な発行に加えて、HPを随時更新していく。また、安全・安心に関わる情報発信も速やかに発信していきたい。

○ 評価基準 A・・・達成できた B・・・おおむね達成できた C・・・やや達成できなかった D・・・達成できなかった